

福岡県ドクターヘリ 2015年度活動実績

活動目的

- 救急の専門医師や看護師が搭乗したヘリが現場で治療を開始することで、救急搬送時間の短縮による救命率の向上や後遺症の軽減、へき地における救急医療体制の強化、災害時の医療救護活動の充実を目的としています。

搭乗者、搭載器機

- ドクターヘリには、操縦士1名、整備士1名、医師1～2名、看護師1名が搭乗し、1～2名の救急患者に対応することができます。人工呼吸器や心電図、電気的除細動器、吸引器、超音波診断装置などの救急治療用機器や薬品、注射などを搭載し現場や機内で救命医療を行うことができます。

搭乗医師要件

- 救急科専門医、もしくはそれに準ずる経験を有するもの

資格

2017年3月現在

救急科専門医

9名

うち救急科指導医

1名

出勤基準 -症例-

- 自動車事故
 - 自動車からの放出
 - 同乗者の死亡
 - 自動車の横転
 - 車が概ね50cm以上つぶれた事故
 - 客室が概ね30cm以上つぶれた事故
 - 歩行者もしくは自転車が、自動車にはねとばされ、又は引き倒された事故
- オートバイ事故
 - 時速35/H程度以上で衝突した事故
 - ライダーがオートバイから放り出された事故
- 転落事故
 - 3階以上の高さからの転落
 - 山間部での滑落
- 窒息事故
 - 溺水
 - 生き埋め
- 列車衝突事故
- 航空機墜落事故
- 船舶事故(火災、転覆、沈没等)
- 爆発事故
- 傷害事件(撃たれた事件、刺された事件)
- 重傷が疑われる中毒事故

出動基準 -患者の状態-

- バイタルサイン
 - 目を開けさせる(覚醒させる)ためには、大声で呼びかけつつ、傷み刺激(つねる)を与えることを繰り返す必要がある(JCSで30以上)
 - 脈拍が弱くてかすかしかふれない、全く脈がない状態
 - 自動車の横転
 - 呼吸が弱くて止まりそうな状態 遠く、浅い呼吸をしている状態 呼吸停止
 - 呼吸障害、呼吸がだんだん苦しくなっている状態
- 外傷
 - 頭部、頸部、躯幹又は、肘もしくは膝関節より近位の四肢の外傷性出血
 - 2ヵ所以上の四肢変形又は四肢(手指、足趾を含む)の切断
 - 麻痺を伴う肢の外傷
 - 広範囲の熱傷 (体のおおむね1／3を超えるやけど、気道熱傷)
 - 意識障害を伴う電撃症 (雷や電線事故で意識がない)
 - 意識障害を伴う外傷
- 疾病
 - けいれん発作
 - 不穏状態(酔っぱらいのように暴れる)
 - 新たな四肢麻痺の出現
 - 強い痛みの訴え(頭痛、胸痛、腹痛)
- その他
 - 毒蛇と思われる蛇による咬傷
 - 毒虫、クラゲ等による刺傷によるショック状態等
 - 減圧症(潜水病・高山病等の圧力の急激な変化によっておこる疾病)による加圧治療が必要な者

要請方法

- 消防機関が119番通報受信時や出動現場で、医師による早期の治療が必要と判断した場合に基地病院のドクターヘリ運航センターに要請します。また、各地域の医療機関が収容している患者を、高次の医療機関に救急搬送する必要があると判断した場合にもドクターヘリを要請することができます。
- 但し、一般住民の方が直接要請することはできません。

費用

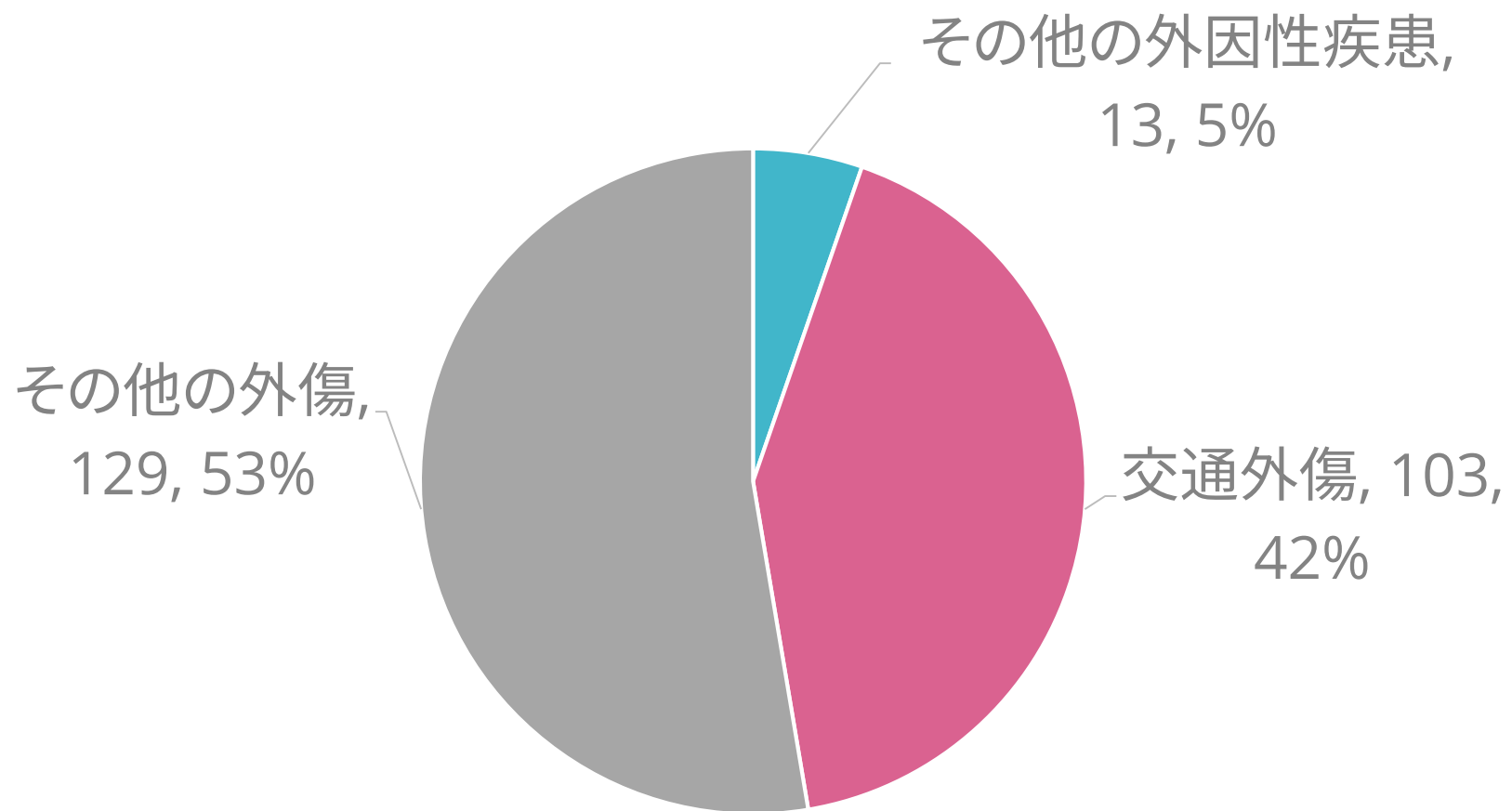
- ドクターヘリ事業は、国及び福岡県から拠出された補助金で運営されています。そのためドクターヘリで搬送された場合の搬送費用は、保険診療の範囲内で患者負担となり、医療機関から患者へ請求されます。

実績

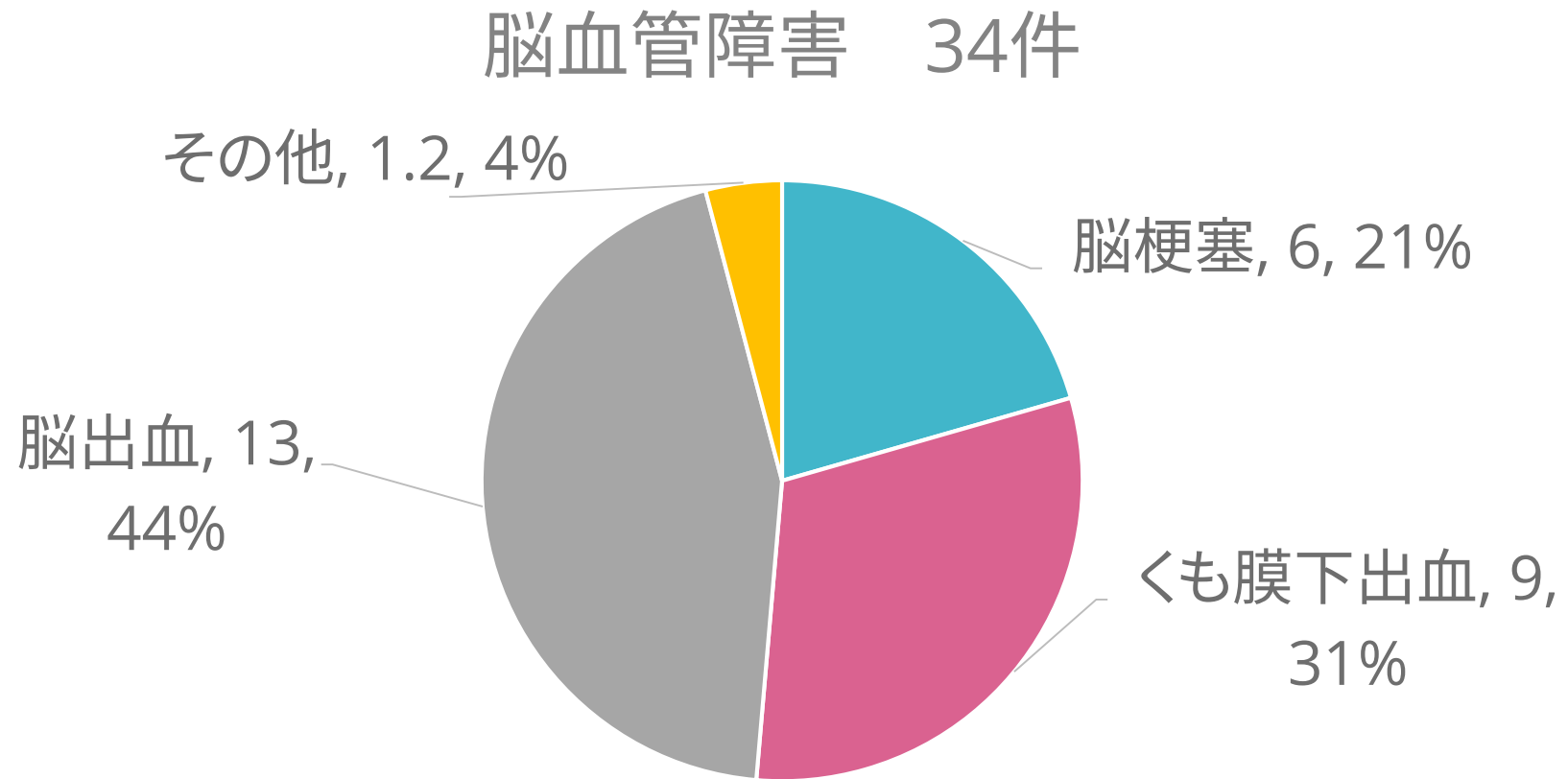
- 平成27年4月1日～平成28年3月31日

全要請 395(件)	出動 336	現場出動 255
		施設間搬送 63
		出動後キャンセル 18
	未出動 59	時間外 9
		天候不良 15
		重複要請 25
		出動前キャンセル 10

外因性疾患 245件



内因性疾患



内因性疾患

心大血管疾患 33例

